

Volume.046



徳山大学校友会誌

とくだい

発行所
徳山大学校友会

〒745-8566
山口県周南市学園台 徳山大学内
TEL&FAX 0834(28)7454

発行日
令和4年3月25日

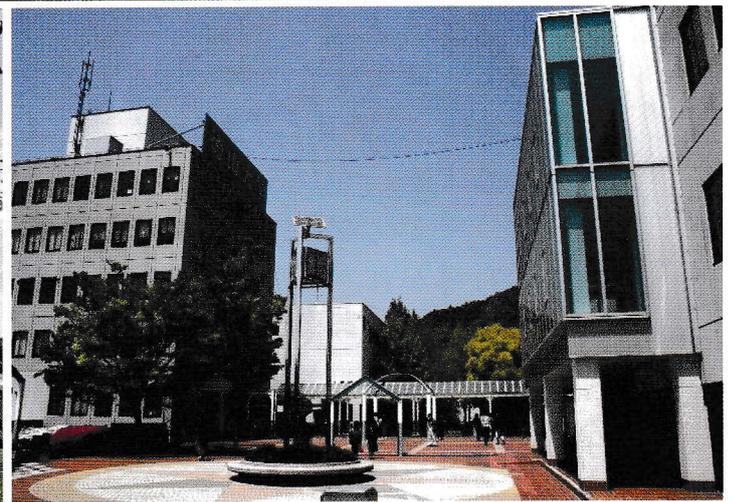
発行責任者 國廣 憲
編集責任者 藤井 辰郎



第1回同窓会(昭和55年2月10日)



創立時のキャンパス



50周年を迎え、そして令和4年4月「周南公立大学」へ。このキャンパスにまた新たな歴史が刻まれます。

徳山大学創立50周年にあたり



徳山大学校友会 会長 國廣 憲

徳山大学創立者高村坂彦先生は、徳山市に日本一の理想都市を建設したいとの夢を描いて中央政界を退かれ、昭和46年この徳山の地に日本の教育のあるべき姿を希求し、「公正な社会観と正しい倫理観の確立」を基に「知識とともに魂の教育を重視した人間形成の真の道場」を建学の精神に掲げられ、徳山大学を創設されました。その後、今日まで、我が母校徳山大学を慈しみ育てていただきました、初代学長湯村栄一先生、出光興産株式会社店主出光佐三氏をはじめ、歴代の理事長、学長、教職員並びに関係者の皆様方に、深く敬意を表します。

思い起こせば、昭和46年4月、私たちは1期生としての入学で、「全てが一からのスタート」でした。初めての学生生活であり、初めての学生会活動、初めての大学祭、初めてのクラブ活動など、全てが手探り状態でした。そのため苦勞することばかりでしたが、それらを通じて、教職員の方々と学生達が、何事においても一体となって、取り組んでいたことが印象に残っています。特に、いまではあり得ないことですが、徳山大学の広報活動として、先生方と一緒に、関西地区まで、学生募集活動を行っていたことがありました。

それこそ無名な大学でしたので、とても苦勞したのを思い出します。しかし、懐かしき良き思い出です。あれから50年経ち、現在卒業生は1万7000人を超えました。

私は平成元年徳山大学の評議員、平成7年に校友会会長、そして同年、理事に就任し、徳山大学の一員として33年を過ごし、校友会活動として常に地域と大学のあり方を見つめながら「文化講演会」や「入学支援」、「就職支援」などを通して大学（学生）に寄与してまいりました。また、10数回に及ぶ「提言書」「要望書」を本学に呈し、大学と共に過ごした年月でした。徳山大学が「山あり谷あり」で在ったことを誰よりも熟知し体感してきた一人と自負しています。

徳山大学は、教職員と学生が、何事にも一体となり取り組む素晴らしい校風をもった大学であります。もし50年前にこの地に徳山大学が生まれなかったら、今この町はどのような変化を遂げていたかは想像に難くありません。本学の50年の歩みは、良き先人に導かれ、立派に大学の存在意義を果たしてきたことと確信しております。全ての卒業生にとって、ここ徳山大学は「第2の故郷」「心のふるさと」であり、これからも心の拠り所として息づいていくことに違いありません。

今後、徳山大学は周南公立大学へと引き継がれていきますが、皆様に於かれましては、更なるご活躍とご健康を心から祈念申し上げます。

徳山大学創立50周年記念式典・記念講演会開催される



令和3年10月30日（土）徳山大学記念会館において、徳山大学創立50周年の式典が開催されました。コロナ感染拡大防止対策を万全に整えた中、幸いにも多くの企業、学校関係者、卒業生を迎えて挙行されました。理事長の式辞の後、高田学長は式辞の中で「地域貢献型大学として、その役割を果たすため、地域の持続的な発展に貢献する地域の成長エンジンを担い、地域に輝く大学づくりに全力を注ぐ」と述べられました。このあと高村正大財務大臣政務官、江島潔参議院議員、山口県知事代理副知事、山口県議会議長代理友広巖県議会議員、藤井律子周南市長、古谷幸男校友会副会長（周南市議会議員）から祝辞がありました。

また、学生代表として学生会執行部委員長3年小林海翔さんが思いのこもった祝辞を述べました。

式典の最後に50周年記念として校友会より「徳山大学50年史」が寄贈されました。式典終了後、元サッカー日本代表監督で本学の卒業生も在籍するFC今治（愛媛県今治市）のオーナーを務める岡田武史氏から「今治からの挑戦～挑戦し続けるスポーツと地域活性化と」と題しての記念講演が行われ、創立50周年にふさわしい、厳粛かつ盛大な、式典となりました。式典の後は、301教室にて卒業生の集いホームカミングデイも行われました。

徳山大学キャンパス施設整備事業について



※イメージについては提案時のもので、変更される場合があります。



正面イメージ

学校法人徳山教育財団は、徳山大学キャンパス施設整備事業の優先権交渉者である、大成建設株式会社中国支店を代表とする共同企業体「大成建設・三和建設・あい設計共同企業体」と令和4年1月13日（木）に基本協定を締結しました。今後は基本協定書に基づき共同企業体と本事業に係る契約を締結し、令和5年度中の竣工に向けて設計や工事が進められる予定です。新しい教室棟は5階建てです。創立から50年、懐かしい思い出いっぱいの校舎ともお別れです新校舎はほぼ現在の1・2・3号館の位置に建設が予定されています。

－ 校友会の皆様へ －

徳山大学 学長 高田 隆

平素より、國廣会長をはじめとしまして、校友会の皆さまには大学運営にご支援ご協力をいただき感謝申し上げます。また、このたびは徳山大学創立50周年におきまして「徳山大学50年史」をご寄付いただき、心よりお礼申し上げます。今後は徳山大学の基本理念を継承しつつ「学生のためになるか。地域の発展につながるかどうか。」の行動指針を教職員一同で共有して、地域貢献型大学のモデルとなることをめざします。卒業生の皆さまにおかれましては、今後も大学をお見守りいただき、ご意見ご助言いただければと存じます。これからの周南公立大学の発展に対しまして、引き続きご支援をいただきますようお願い申し上げます。

(※以下の内容につきましては「広報しゅうなん448号」より引用・抜粋・加筆について了解をいただき編集しております)



4月1日、周南公立大学が誕生します。50年前、市が誘致し開学した、徳山大学の歴史と伝統を引き継ぎながら、知の拠点として、これまで以上に地域に愛され地域に貢献する大学をめざします。



公立大学法人周南公立大学
初代理事長（兼学長）予定者
高田 隆 氏

【プロフィール】

広島大学大学院歯学研究科修了（歯学博士）
広島大学副学長（産学連携担当）を経て、
平成31年度から徳山大学学長に就任。



高田隆徳山大学学長にこれからの大学の展望について伺いました。

～公立化後のめざす大学像は～

50年前、大学を誘致された高村坂彦元徳山市長の建学の思いは、「日本一のまちづくりの中核となる大学をぜひ徳山市に作りたい」ということであつたと伺っています。

私は、令和3年、創立50周年を迎えるにあたり、地域貢献型大学としての役割を明示するために、大学のミッションを「地域の持続的発展と価値創造のための『成長エンジン』となる」ことと再定義させていただきました。

このような本学の成り立ちやミッションを踏まえて、本学が周南市と政策課題を共有し、地域の課題解決に取り組むために、「地域に根差し、地域の問題を地域と共に解決し、地域に愛され、地域に信頼され、地域の皆さまに誇りに思っていただけ『地域に輝く大学』となる」ことを大学のめざす姿（ビジョン）としています。

～今後の学生確保の見通しは～

令和4年度の入試では、学校推薦型選抜や総合型選抜などにおいて定員を大きく超える志願者があり、年明けの一般選抜や大学入学共通テスト利用などの入試には、さらに多くの志願者が集まっており、十分な学生を確保できると考えています。

また、令和6年には情報科学部と看護学科などの学部・学科新設を予定していますが、さらに志願者が増加し、学力の高い学生の確保が十分可能であると考えています。

～周南公立大学の果たす役割は～

公立大学というブランドと社会的信頼性をもとに、地域の高校生が進学したいと思う魅力ある大学となるとともに、卒業生の多くが地域に定着することで、周南市が大学を活用したまちづくりとして掲げる「地域人材循環構造の確立」と「若者によるまちの賑わいの創出」の実現に貢献します。

また、地域の持続的な発展と新しい価値創造につながる社会・産学連携活動を展開し、周南地域における「知の拠点」としての役割を果たします。

～新たな学部学科でめざす教育は～

看護学科では、4年間の教育プログラムの中で、資格取得に必要な専門知識や技能の習得にとどまらず、超少子高齢化の進展に伴って複雑化・多様化する医療・介護提供体制の変化に対応するための人間性や課題発見解決力などの総合的能力を育成します。公立大学の視点として、地域看護や在宅看護にウエートを置いた教育を行います。

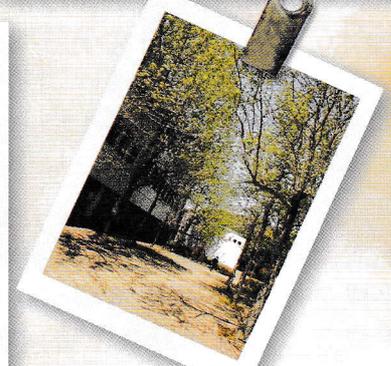
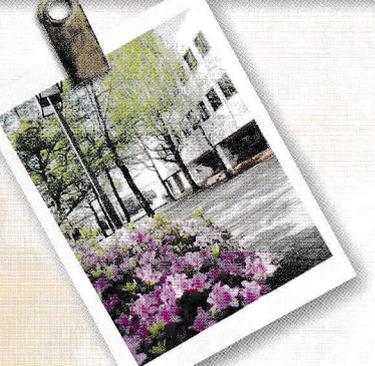
また情報科学部では、データサイエンスをベースとして、学部横断的な教育や研究を実施します。情報科学分野の専門的人材に加えて、情報科学のわかるビジネスパーソンや医療・福祉人材など、Society5.0において地域の発展を支える人材育成を行います。

徳山大学50年間の歴史 ～開学から公立化まで～

- | | |
|-------|--|
| 昭和44年 | 徳山市議会において中央学院大学誘致を議決 徳山市から建設資金と経常経費の補助として2億8,000万円と校地約3万3,000㎡を提供される。運営自体は私学として行われるため、このことからのち「公設民営型」のさきがけの大学と言われる。 |
| 昭和46年 | 中央学院徳山大学開学(経済学部経済学科 入学定員200名) |
| 昭和49年 | 徳山教育財団設立(中央学院より分離独立)初代理事長 高村坂彦先生 |
| 昭和51年 | 経済学部経営学科開設(入学定員100名) |
| 昭和62年 | 徳山女子短期大学経営情報学科開設(入学定員100名) |
| 平成15年 | 福祉情報学部福祉情報学科開設(入学定員100名) |
| 平成16年 | 徳山女子短期大学を廃止 |
| 平成17年 | 経営学科をビジネス戦略学科に名称変更 |
| 平成19年 | 経済学科を現代経済学科へ名称変更 |
| 平成20年 | 福祉情報学部福祉情報学科の社会福祉コースに「介護福祉要請課程」設置 |
| 平成24年 | 福祉情報学科を人間コミュニケーション学科に名称変更 |
| 平成31年 | 4月高田隆学長就任 |
| 令和元年 | 公立化に関する要望書を周南市長に提出 |
| 令和2年 | 徳山大学公立化に関する有識者検討会議を設置
徳山大学地域共創センター開設 周南創生コンソーシアムを創設 |
| 令和3年 | 4月「徳山大学」の名称継承の要望を行う(校友会)
7月「徳山大学」の名称継承について周南市と協議(校友会)
7月 周南市内において市民説明会を開催 公立化を正式決定
8月 市議会で定款などの公立化関連議案が議決
11月 評価委員会を設置
12月 山口県及び文部科学省から公立大学法人の設立が認可 |
| 令和4年 | 公立大学法人周南公立大学設立 |

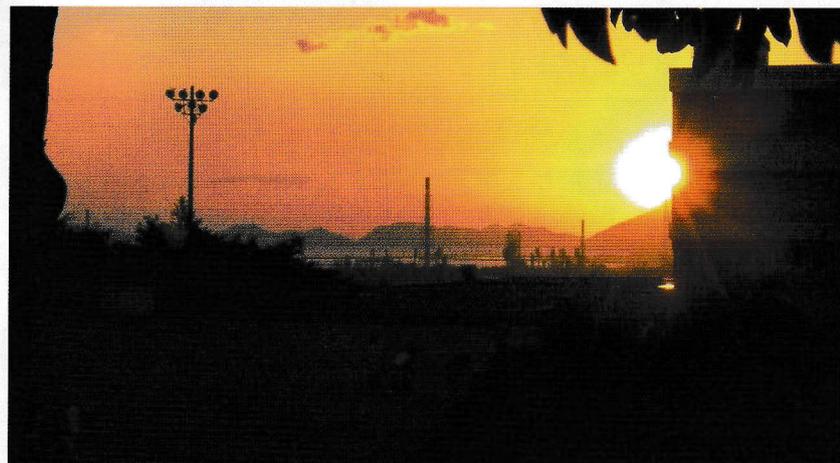
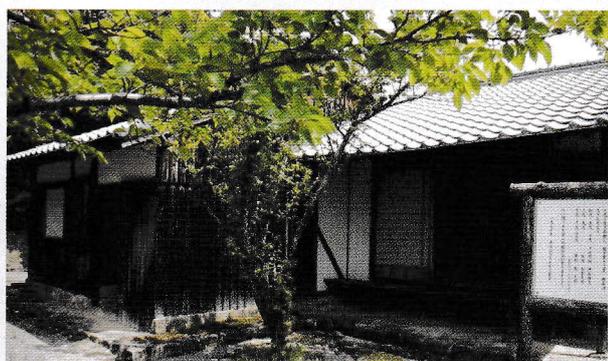


懐かしのキャンパス風景



このページ紹介の写真は、50代前後の方以降には懐かしい写真と思います。上段は初期キャンパス。中段は学食で、いこいの場でした。お茶はやかんに入れてテーブルの上にありました。そして当時誰もが愛した鳥ライスです。その右は全景（昭和50年代前半）3段目は、校友会喫茶（現在の知財館）ドリンクオール100円でモーニングセットもありました。

担当の気さくな渡辺さんと綺麗なお姉さんの藤田さんも大人気でした。その右は光市で空手部の指導の下に行われた寒行。真冬の虹ヶ浜寒かったですね。4段目は1号館北側。このかえでは今では大きく成長して、春秋には素晴らしい景色をみせてくれていました。



上段は、運動具塚祭という神事を3年に一度行っていました。1号館の北側です。日ごろお世話になっている運動具に対する感謝の気持ちを込めて、今後の活動への気持ちを清める行事でした。右は平成2年に創立者高村坂彦先生の立像が建立され、松下村塾の模築も建てられました。「徳山大学小なりと雖も、日本一の大学にならん」と高村先生の思いは、まさにこれからの大学の中にも息づいていくことでしょう。

創立30周年では柔道家の山下泰裕さんをお迎えして講演会がありました。山下さん左は杉光学長、右は國廣会長、吉岡先生です。

徳山大学は美しい風景があまたありました。その中でも、瀬戸内海の小島の浮かぶ間に沈む夕日の景色はどこの大学にもない美しい風景と思います。最後は人工芝と桜です。本当に徳山大学は四季折々の美しい風景の中に囲まれた中で、教職員と学生の距離の近い、人の心と心の通う素晴らしい大学で、今後も継承されてゆくことでしょう。

卒業生のおたよりコーナー ～校友会にお寄せいただいたお便りをご紹介します～

3期 盛重 康雄さん

今回退職された、なかはらかぜ先生のメッセージを拝見しました。同じ地元の方でよく柴犬の散歩されていました、懐かしいです。



17期 浜野 真治さん

卒業して30年。出張の際、新幹線から見える徳山の町を見ると楽しかった時の事を思い出します。なかなか途中下車して足を踏み入れることは出来ませんが、校友会誌に掲載されている写真を見て、昔を懐かしみ、今を知れる事に感謝しています。学友達は、それぞれ離れたところで暮らしていますがSNSでつながっていていつか集まろうが口癖です。

28期 澤田 博也さん

大学創立開校50周年、誠におめでとうございます。卒業してから久しく校友会誌を読む機会がありませんでしたが、この度会誌が届きました。知らない行事やこんな場所が?など楽しんで読ませていただきました。ありがとうございます。

私自身陸上部に所属して当時は大学駅伝やインカレを目標に頑張っていました、その他はさっぱり。

今思えば授業や講義ももっとまじめに、キャンパスライフを満喫しておけばと自戒の念を感じているところです。

高倉先生時代の陸上部が中心になりますが、フェイスブック上のグループで陸上部OB/OGの管理者も私がしております。(現在61名)全国のOBを集めての大規模な同窓会も過去に数回開催したのですが、前回開催からしばらく経ちましたので数年前から計画していたのですが、コロナでそれも頓挫してしまいましたが、終息してまた皆で集まれる機会をつくりたいものです。徳山大学の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。



34期 藤田 明史さん

毎回とくだい校友会誌が届くのを楽しみにしております。コロナ禍で自宅にいる事も多く最初から最後まで見させていただいています。周南市でもコロナ感染が多く、早く収束し、人と人が笑い会える日々が早く来ることを祈っています。

退職教員紹介～大変お世話になりました(令和4年3月31日・依願退職)

井出野尚教授
羽田司 講師

日高晋作教授
小松佐穂子准教授

赤松礼奈准教授

元安陽一准教授

《プレゼントコーナー》～山口県名産品～

①澄川酒造(萩) 5名様

東洋美人純米吟醸大辛口
今や山口県を代表するお酒のひとつです。



希望商品、氏名、年齢、住所、電話番号、会誌へのご意見・ご感想をお書き添えの上、

郵送の場合

〒745-8566
山口県周南市学園台 徳山大学校友会

Eメールの場合

kouyukai@tokuyama-u.ac.jp
ご送付ください。

※ご意見・ご感想は、誌上・HP上で掲載されることがありますので、予めご了承ください。

また、個人情報については、事務連絡のみに使用させていただきます。

②山縣本店(周南) 10名様

焼酎2本セット(米・芋)
おなじみ周南市徳山の地元焼酎です。



③杉本利兵衛本店(防府) 10名様

金銀竹輪セット
お酒にも合う食感が独特で人気のある竹輪です。



編集後記・お礼

こうして大学も一区切りを迎え、校友会の活動も、これからに向けて模索検討中です。校友会誌を、毎回楽しみにしてくださっている方の声も随分スタッフ一同励みとなりました。おたよりの中にもありますが、コロナ禍もまだ先が見通せず、国際情勢も不安定ですが、元気に希望を持って日々を送りたいものと思います。

編集スタッフ

企画広報部長 藤井辰郎(25期)
中村道陽(11期) 藤田美恵(事務局)

印刷・デザイン: 東洋印刷 協力: 周南市・徳山大学

